

茨城大学大学院理工学研究科 都市システム工学専攻

令和4年度後期 専攻教育点検報告書

令和5年4月17日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 原田隆郎

1. 実施日時と場所

令和5年3月24日（金） 11:20～12:00 Teams オンライン

令和5年4月12日（水） 13:00～14:00 Teams オンライン ※国内実践教育演習のみ

2. 出席者

常勤教員：山田稔，小林薫，横木裕宗，原田隆郎，桑原祐史，信岡尚道，熊澤貴之，平田輝満，車谷麻緒，辻村壮平，肥田剛典，榎本忠夫，一ノ瀬彩，吉田友紀子，稲用隆一，遠藤克彦，久野靖広，藤田昌史，増永英治（全常勤教員19名のうちの19名が出席）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 都市システム工学専攻 教育改善委員会議事録

資料1-2 都市システム工学科/専攻 FD 研修会議事録

資料2 2022年度（後期）学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会 議事次第

資料3 2022年度後期 都市システム工学専攻 授業点検改善表集

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり．

常勤教員担当科目分： 22科目／常勤教員担当科目総数 22科目

非常勤教員担当科目分： 0科目／非常勤教員担当科目総数 0科目

4. 2 点検した科目

国土空間情報特論，交通計画特論，社会基盤情報処理特論Ⅰ，社会基盤情報処理特論Ⅱ，維持管理工学特論（休講），建築構造デザイン特論，建築史・意匠特論Ⅱ，建築設備・地域エネルギー特論，沿岸環境形成工学特論，応用水理学特論Ⅱ，地球・海洋環境保全科学特論（休講），建築環境デザイン演習，建築都市デザインスタジオⅢ，ワークショップ，サステイナビリティ学インターンシップ（履修生なし），都市システム工学専攻学外実習，建築実務実習，サステイナビリティ学最前線，国際実践教育演習（休講），国内実践教育演習，フ

ファシリテーション能力開発演習Ⅰ，ファシリテーション能力開発演習Ⅱ（休講），社会基盤デザイン特別演習Ⅱ，社会基盤デザイン特別研究Ⅱ，建築デザイン特別演習Ⅱ，建築デザイン特別研究Ⅱ，サステナビリティ学特別演習Ⅱ

の 22 科目（休講の 4 科目を除く）

後期に開講した専門科目の総数 22 科目中 22 科目（100%）

4. 3 具体的な点検方法

前期に開講した 22 科目中 22 科目について，以下の方法で点検を実施した．各科目の具体的な点検結果は，資料 1-1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと．

- ・ 3～5 科目程度のグループ（資料 2 参照）ごとに，各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて，特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し，それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で，実施した．
- ・ 随時，提出済みの電子データや，茨城大学 FD/SD 支援システムを参加者が各自で確認し，それに関しても必要に応じ議論した．
- ・ ファイル提出された教員間ネットワークの活動状況（学部の授業点検に用いたものと同じもの）についても，確認した．

4. 4 （専攻の点検報告書のみ）特別演習，特別研究の実施状況など

社会基盤デザイン特別演習Ⅱ，建築デザイン特別演習Ⅱ，サステナビリティ学特別演習Ⅱ，社会基盤デザイン特別研究Ⅱ，建築デザイン特別研究Ⅱ の 5 科目については，「①実施内容と状況」，「②実施の証拠と保存状況の確認」，「③成績評価の方法」を所定の書式にまとめた報告書を点検し，「④学生からの報告と指導への要望」を確認した．

内容については 資料 3 授業点検改善表集 に収録のとおりである．

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

- ・ 点検を行った全ての科目において，昨年度に改善すべき問題点については改善されていることが確認された．
- ・ 学生の履修のしやすさ等に配慮するため，2 単位であった科目の一部を，今年度から，学期をまたぎ 1 単位ずつに分けて開講するように変更して実施した．

5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・ 社会基盤情報処理特論Ⅰでは，CNN による画像分類実習，ゲストスピーカーによる AI 技術の建設分野への適用事例の講演が好評であった．
- ・ ファシリテーション能力開発演習Ⅰでは，グループワークなど研究科を越えたグループ

分けて実施したのが好評であった。

- ・ 建築構造デザイン特論では、実際の建物の構造計算をレポートとして課し、実務の構造設計の一部を体験できるように心がけたのが好評であった。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・ 一部、更新したシラバスを提示できていなかった科目があったため、次年度から改善する。
- ・ 一部、初期設定の内容の難易度が高すぎたと見受けられたので、授業内容の難易度や範囲を実態に合わせて再確認と調整を行う必要がある。
- ・ 授業時間外の学習時間について適正なものになるように努める必要がある。
- ・ 1単位化した科目については、後期の履修状況も合わせて確認した上で、引き続き、効果の検証が必要である。
- ・ サステナビリティ学プログラムの点検結果は、提出資料が不十分で講義が適切に行われているのか、とくに学修レベルにおいて確認できなかった。

6. 教育改善活動

- ・ 詳細は、資料 1-2 参照
 - ・ 日本とアメリカにおける教育方法や研究指導の違いについて、研究室学生の遠隔指導について、2022 年度のサバティカル時における経験を基に紹介された。その上で、質疑および意見交換を行った。
 - ・ 米国では、学部や修士の課程で論文を書くことは基本的になく、博士課程で行うことが多い。修士課程は授業の履修が中心である。
 - ・ 学生の学習意欲が日本と違って、基本的に高い。給料をもらっている社会人に近いので、基本的に欠席することはない、しかも楽しく学んでいる学生が多い。
 - ・ 日本（茨城大学）の授業アンケートの方法について検討しなおす点が多いのではないか。また、日本でも、教員の研究エフォートと教育エフォートの違いを考慮してもよいのではないか（名称はともかく、研究型教員と教育型教員）。
 - ・ サバティカル期間中における遠隔での学生指導について、時差による負担（米国西海岸の場合、おおよそ日本の朝 8 時が米国の夜 8 時となる）が大きいこと、日本での業務に合わせて一時帰国することの重要性が挙げられた。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を teams の学科会議チームに設置した学科 FD チャンネル内に備え、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学連携カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

産学連携カリキュラム改良委員会（2022 年 12 月 14 日（水）16:00～17:30，オンライン会議(MS Teams)）では，おもに，①都市システム工学科のカリキュラム改良について，現カリキュラムおよび全学レベルの教育改革について説明を行い外部委員と意見交換を実施した．②土木建築融合の教育プログラムの推進について，特に土木建築構造分野のカリキュラムについて説明を行い，外部委員と意見交換を実施した．学科・専攻としては R6 年度から始まるカリキュラムへの反映を目指しており，専攻全体として取り組んでいる．土木・建築の融合に関する教育での扱いについて提案をいただいた．

9. その他

特になし．